

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年9月26日（火）

2 確認箇所

多核種除去設備等処理水希釈放出設備

- (1) 測定・確認用設備（K4タンクエリア）
- (2) 希釈放出設備海水配管（5、6号機護岸ヤード）

3 確認項目

- (1) 処理水受入の準備状況
- (2) 海水配管埋め戻し作業の状況

4 確認結果の概要

(1) 処理水受入の準備状況について

多核種除去設備等処理水（以下、「ALPS処理水」という。）の初回放出が9月11日に終了したため、東京電力はALPS処理水希釈放出設備の点検等を行っている。

放出する前のALPS処理水を循環・攪拌し、放射性物質の濃度が基準以下であることを確かめる測定・確認用設備としてK4タンクエリアが使われている。

K4タンクエリアでは、初回放出で使用されたB群タンクに他のタンクのALPS処理水を受け入れるための準備作業が行われていたため、状況を確認した。（図1）

なお、東京電力によれば、ALPS処理水貯留タンクから測定・確認用タンクにALPS処理水を受け入れる際は、沈降性の物質を考慮し、フィルタを介して移送するとしている。（参考：令和5年度第4回福島県原子力発電所安全確保技術検討会資料1-1）

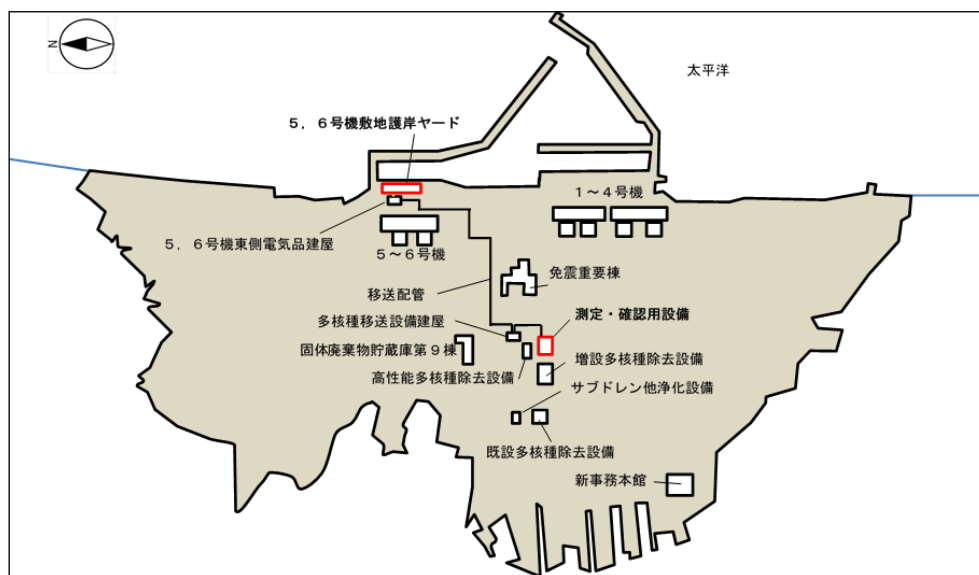
- ・K4タンクエリア南側では、フィルタを設置するための準備作業として、協力企業作業員が鉄板の敷設、土台、架台の設置作業を行っていた。（写真1）
- ・なお、K4タンクエリアB群タンクに受け入れるALPS処理水として、K4タンクエリアE群タンク及びK3タンクエリアA群タンクが予定されている。

(2) 海水配管埋め戻し作業の状況について

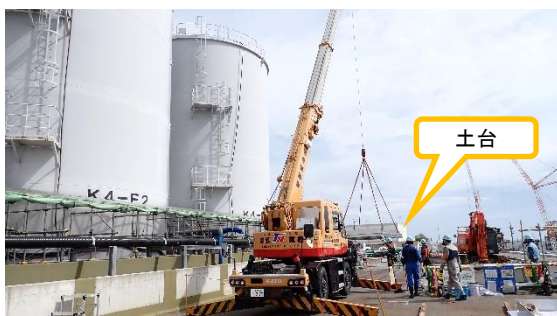
希釈放出設備では、海水配管ヘッダ下流側で、配管が地表面より下がった部分において、配管周囲の土砂の埋め戻しが行われていた。（図1）

- ・現場にはバックホウが置かれ、作業員が配管周囲に運び込まれた土砂の均し作業を行っていた。（写真2）

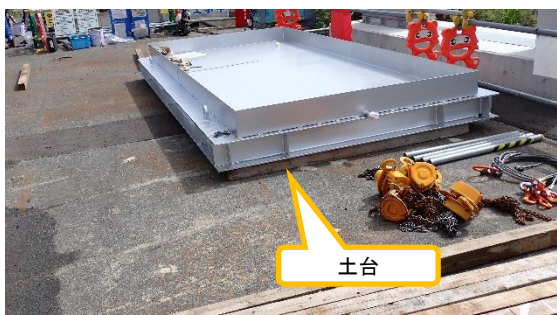
- ・東京電力によれば、海水配管の埋め戻しが行われた後、上部は道路となる予定である。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
土台設置作業の状況



(写真1-2)
土台



(写真2)
土砂の埋め戻し作業の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。